

LINTEC

WAVE

株主通信誌

JUNE 2024

95

社長インタビュー

長期ビジョンの実現に向けて 新中期経営計画が始動

代表取締役社長 社長執行役員

服部 真

第130期

(2024年3月期)

決算情報

証券コード：7966

LINTEC WAVE 95

JUNE 2024



ゆみがわきょうこく
由布川峡谷 (大分県)

高さ15m~60mの岩肌が約12kmにわたって続く。40数条の滝が糸のように流れ落ちる美しい景観が特徴。

目次

2 1年間の主な動き

4 社長インタビュー

長期ビジョンの実現に向けて 新中期経営計画が始動

代表取締役社長
社長執行役員

服部 真

9 トピックス

10 LINTEC ESSAY

自分への投資が最高の投資 宮本 亜明

12 決算情報

14 セグメント情報

17 会社概要/役員一覧

18 株式情報

19 アンケートへのご協力をお願い

お知らせ

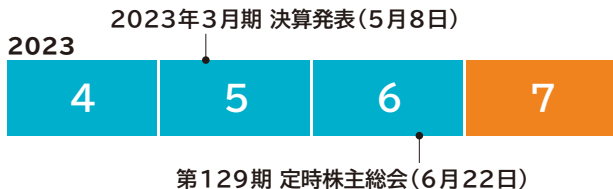
これまで年4回発行していた当誌「LINTEC WAVE」は、今期より年2回発行(6月・通期決算号、12月・中間決算号)に変更いたします。

今後もウェブサイトなどを通じて株主の皆様により詳細な情報提供に努めてまいりますので、引き続きご愛読くださいますようお願い申し上げます。

(免責事項)

業績予想などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

1年間の主な動き



5月31日

- カナダのラベル用粘着製品の裁断加工・販売会社であるラベルサプライ社の事業を約70億円で買収



6月23日

- 使用済み剥離紙の有効活用・リサイクル促進に向け、ラベル循環協会に参画

9月20日

- 当社環境配慮ラベル素材が国際的な賞であるラベルインダストリーグローバルアワードを受賞

10月2日

- 環境意識の高まりや脱プラスチック需要に応えるフツ素樹脂不使用の耐油紙を発売



2024年3月期 第1四半期 決算発表(8月9日)



2024年3月期 第2四半期 決算発表(11月8日)

2024年3月期 第3四半期 決算発表(2月8日)

10月19日

- 半導体の偽造防止技術確立に向けた国家プロジェクトへの参画を発表



11月1日

- プラスチック容器のリサイクルを促進するラベル素材の新アイテムを発売

12月12日

- 次世代半導体向けのEUV露光機用ペリクルの要素技術の確立を発表



(写真提供: imec)

12月20日

- 半導体関連製品や新規プロセスの研究開発を担う新たな組織として、福岡県の三次元半導体研究センター内に「実装技術開発室」を開設



12月20～24日

- 「第92回 全日本フィギュアスケート選手権大会」に協賛

1月1日

- リンテック人権方針を制定

1月15日

- インドネシアのラベル用粘着製品の販売会社であるマルチヤサ スワダヤ社を約11億円で買収



3月21日

- 韓国・台湾の光学ディスプレイ関連粘着製品の製造子会社の解散を発表
- 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について発表
- 新中期経営計画「LSV 2030 - Stage 2」の概要を発表



長期ビジョンの実現に向けて 新中期経営計画が始動

当社グループでは2030年を見据えた長期ビジョン「LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030 (LSV 2030)」の実現に向けたマイルストーンとして、2027年3月期を最終年度とする新たな中期経営計画「LSV 2030 – Stage 2」を策定し、この4月よりスタートしました。長期ビジョン達成に向けた新中期経営計画の概要や今後の見通しなどについて服部社長に聞きました。



2030年3月期財務指標

売上高営業利益率 **12%以上**

ROE (自己資本当期純利益率) **10%以上**



代表取締役社長
社長執行役員 はっとり まこと
服部 真



最初に前中期経営計画「LSV 2030 – Stage 1」の業績の振り返りをお願いします。



2021年4月スタートの「Stage 1」では、初年度に売上高・利益ともに過去最高を記録し、最終年度の経営目標を前倒しで達成したこともあり、当初の数値目標を大幅に上方修正しました。しかし2年目には、原燃料価格や物流費の高騰に加えて、電子・光学関連製品や他の製品の急激な受注減少に伴う生産設備の稼働率低下による操業損失が発生するなど、収益面では極めて厳しい事業環境が続きました。

最終年度の2024年3月期においては、価格改定や円安効果に加え、第3四半期以降、半導体・電子部品関連製品やシール・ラベル用粘着製品を中心に受注は回復傾向にありましたが、上期の不振をカバーするまでには至りませんでした。また、韓国と台湾の連結子会社の解散決議に伴い、特別損失を計上いたしました。以上の結果、2024年3月期の連結業績につきましては、下記のとおり減収減益となり、「Stage 1」の経営目標も未達となりました。

2024年3月期連結業績(前期比)

売上高

276,321百万円(2.9%減)

営業利益

10,628百万円(23.0%減)

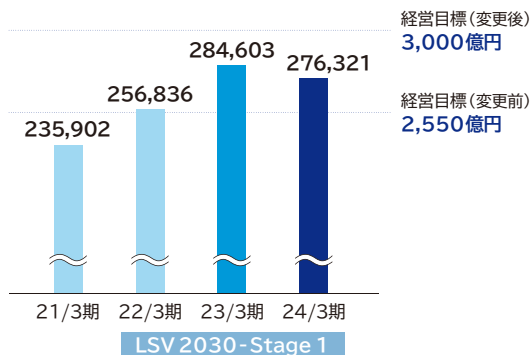
経常利益

11,537百万円(26.1%減)

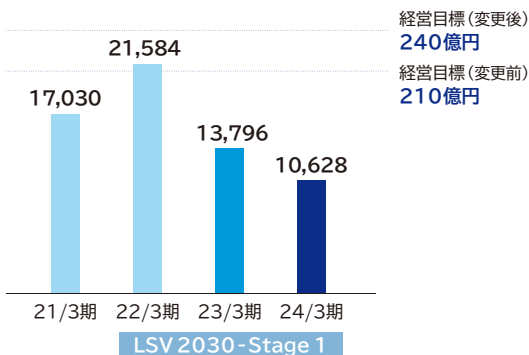
親会社株主に帰属する当期純利益

5,243百万円(54.5%減)

売上高(百万円)



営業利益(百万円)



Q 「LSV 2030 – Stage 2」では、どのようなことに取り組んでいくのでしょうか。

A 「Stage 1」に続き、長期ビジョン「LSV 2030」の実現に向けた三つの重点テーマに沿って、社会的課題の解決に向けた取り組みはもちろん、いかなる事業環境下でも確実に利益を稼ぎ出せるよう企業体質の強靱化を進めてまいります。具体的には、不採算事業の撤退を含めたポートフォリオの再構築を図るとともに、国内外グループ会社の経営健全化、省エネ・高品質・省人化などを目的とした新規設備の導入や生産プロセス革新を通じたコスト競争力アップによる高収益化に努めます。また、「Stage 1」で要素技術

確立したEUV露光機用ペリクルの早期量産を目指すほか、2023年に開設した実装技術開発室などを活用し、先端半導体におけるパッケージング技術に関わる新たな製品・プロセスの提案を図るなど、成長投資や研究開発にも注力してまいります。

「Stage 2」では、財務基盤の強化を図りつつ期間中に生み出す約1,300億円のキャッシュフローを企業価値向上のための設備投資などに約600億円、研究開発投資に約320億円、そのほかM&Aなどの機動的投資にも活用いたします。加えて、積極的な株主還元も行ってまいります。

長期ビジョン

「LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030」(略称:LSV 2030)

基本方針

イノベーションによる企業体質の強靱化と持続的成長に向けた
新製品・新事業の創出を通じて、サステナブルな社会の実現に貢献する

重点テーマ

1. 社会的課題の解決

- (1) 環境…脱炭素社会・循環型社会の実現への貢献 など
- (2) 社会…人権の尊重、ステークホルダーへの情報開示とコミュニケーション強化 など
- (3) ガバナンス…コーポレートガバナンスの強化、取締役会の実効性のさらなる向上 など
- (4) 事業活動を通じたSDGs達成への貢献

2. イノベーションによる企業体質の強靱化

- (1) DXによる設計・開発・製造・物流・業務プロセスの変革
- (2) ビルド&スクラップによる省エネ、高品質、高効率、省人化を目的とした新規生産設備の導入
- (3) 生産プロセス革新によるコスト競争力の強化
- (4) 低成長・不採算事業の構造改革とグループ会社の経営健全化
- (5) 強固な財務基盤の維持と資本効率の向上

3. 持続的成長に向けた新製品・新事業の創出

- (1) 技術革新による新製品・新事業の創出
- (2) 戦略的投資の拡大と機動的M&A
- (3) さらなるグローバルプレーヤーへの飛躍
- (4) ローカリゼーションの確立

LSV2030 – Stage 2

2027年3月期(最終年度)経営目標

売上高

3,150 億円

営業利益

255 億円

親会社株主に帰属する当期純利益

180 億円

売上高営業利益率

8%以上

ROE(自己資本当期純利益率)

8%以上

各事業部門の主な取り組み

■印刷・情報材事業部門

- 北米やアジアでの拡販と収益向上
- 地球環境との共生と循環型社会の実現に向けた取り組み など

■産業工材事業部門

- ウィンドーフィルムのさらなる高機能化と拡販
- 労働力不足の解決や生産効率の向上に貢献する新製品の開発やシステムの拡販 など

■アドバンストマテリアルズ事業部門

- エレクトロニクス市場の成長に向けた継続的な設備投資と需要対応
- 先端半導体後工程におけるパッケージング技術に関わる新たなテープや装置、独自プロセスの開発
- EUV露光機用CNTペリクル量産体制の確立 など

■オプティカル材事業部門

- 光学ディスプレイ関連粘着製品の展開
- 車載用OCA(Optical Clear Adhesive)などの新製品の開発と拡販 など

■洋紙事業部門

- 耐油紙のさらなる用途展開
- プラスチック代替高機能紙の開発・拡販 など

■加工材事業部門

- 合成皮革用工程紙の海外展開強化
- 炭素繊維複合材料用工程紙の拡販 など

キャッシュロケーション(2025年3月期~2027年3月期)

財務基盤の強化ならびに将来の企業価値向上のための生産設備や研究開発投資などに有効活用する

<p>「Stage 2」期間中の キャッシュフロー (営業利益+減価償却費+のれん償却)</p> <p>約1,300億円</p> <p>外部資金調達</p>	<p>成長投資</p>	<p>設備投資ほか</p> <p>約600億円</p> <ul style="list-style-type: none"> • 積層セラミックコンデンサ関連テープ塗工設備 • 半導体関連粘着テープ塗工設備 • 剥離紙塗工設備 • 環境関連投資 • DX関連投資
		<p>研究開発投資</p> <p>約320億円</p> <ul style="list-style-type: none"> • 半導体パッケージング技術に関わる新たなテープや装置、独自プロセスの開発 • EUV露光機用CNTペリクル量産体制の構築 • 環境配慮製品の開発
		<p>M&Aなどの 機動的投資</p> <ul style="list-style-type: none"> • 国・地域、新市場、新領域への展開
	<p>株主還元</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 「Stage 2」最終年度の2027年3月期までは原則として減配せず配当性向40%以上またはDOE3%を目途に配当を実施 ▶ 機動的な自己株式の取得 	

Q 今期の業績見通しについて教えてください。

A 2025年3月期につきましては、欧米を中心とした金融引き締めやウクライナ・中東情勢の長期化、さらに米中対立など、先行き不透明な状況が続くと予想されます。しかし、生成AI向けの半導体関連装置の大口受注や半導体関連粘着テープ・積層セラミックコンデンサ関連テープの需要回復によるアドバンストマテリアルズ事業の伸長のほか、米国のマックタック・アメリカ社の業績改善や単体における価格改定効果・販売数量増加などを見込み、業績予想は増収増益としました。事業

環境の変化に大きく左右されない企業体質の強靱化を進め、業績の向上に努めてまいります。

2025年3月期連結業績予想(前期比)

売上高	2,900億円 (5.0%増)
営業利益	180億円 (69.4%増)
経常利益	180億円 (56.0%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	130億円 (147.9%増)

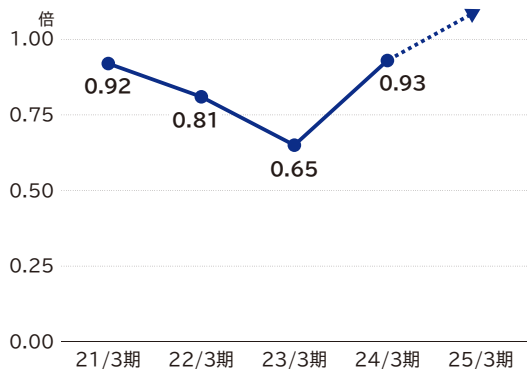
Q 株主還元策を含め、株主・投資家の皆様へのメッセージをお願いします。

A 前期の期末配当につきましては当初予想どおりの1株当たり44円とし、年間で88円とさせていただきました。前期に発表した配当方針を継続し、「Stage2」期間中(2027年3月期まで)は原則として減配せず、配当性向40%以上またはDOE(株主資本配当率)3%を目途に配当を実施してまいります。さらに、手元資金を勘案のうえ、適宜必要性を判断しながら機動的に自己株式の取得も検討していくほか、株式市場との建設的な対話やIR活動の強化にも取り組むなど、企業価値の向上と継続的なPBR(株価純資

産倍率)1倍超えを目指してまいります。

株主・投資家の皆様には引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

PBR(株価純資産倍率)

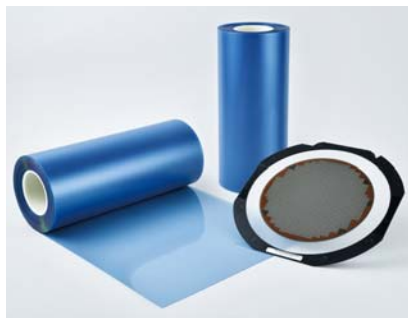


半導体チップの耐久性や信頼性向上に貢献する新たな製品を開発

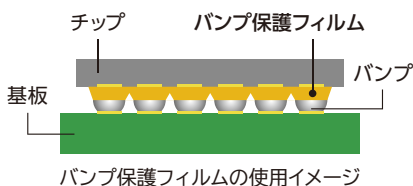
電子機器の小型化・軽量化・高機能化が進む中、そこに搭載される半導体のパッケージング技術として小型化・軽量化や基板への高密度実装を実現する「WLCSP*」と呼ばれるプロセスが注目されています。

このプロセスでは構造上、半導体チップの表面に基板接続用のバンプ(突起電極)が形成されており、熱による変形や応力などの負荷が掛かると、この部分に亀裂が生じるリスクがありました。当社ではバンプを樹脂で保護することでこれを抑制し、チップの耐久性や信頼性を向上させるバンプ保護フィルムを開発。本製品は、半導体ウェハの裏面研削工程の際に表面を保護する機能も兼ね備えており、既存の当社バックグラインド用テープラミネーターもご活用いただけます。また、バンプの形状や大きさの違いに応じてカスタマイズすることで、お客様のウェハに最適な提案も可能です。当社では、今後も半導体チップの信頼性向上に貢献するテープや装置、製造プロセスの開発に努めていきます。

*WLCSP(Wafer Level Chip Scale Package)：ウェハ上でパッケージとしての処理を加え、最終的にウェハを切断した後、基板に直接チップを実装するプロセス



バンプ保護フィルムと半導体ウェハ



バンプ保護フィルムの使用イメージ

INTERVIEW

当部ではお客様の声や市場の技術トレンドなどにアンテナを張り、研究開発部門と連携しながら、半導体製造工程における新たな事業企画の立案を常に模索しています。新製品であるバンプ保護フィルムは半導体チップの耐久性や信頼性を高めるために直接使用される材料として、その将来性に大きく期待しており、スマートフォンのほか、電子デバイスの重要性が急速に高まっている自動車用途に搭載される半導体パッケージ向けに提案していきます。さらに、拡販に当たっては当社の強みである“お客様に寄り添ったカスタマイズ力”を発揮することで、満足いただける価値を提供できるよう努めてまいります。



アドバンストマテリアルズ事業部門
事業企画部 副部長
なかやま たけひと
中山 武人

自分への投資が最高の投資

宮本 亜門

結果的に、投資というのは、「自己投資」が一番だと思っている。

数字だけを追い求めるのも違うし、興味の無いものにお金だけのために関心を寄せるのも心に悪い。自分への自己投資は学び直しなどもあるが、健康への時間やお金の使い方も自己投資だと思っている。20代以降、ロンドンやNYへ足繁く通い、さまざまな舞台を観て目を肥やしていた。それは今でも変わっていない。ただ、コロナ禍になって、オンライン上やSNS、ネット配信などのものに触れることで、Web3の世の中が来る前提で、最近では若い方の力を借りて、なんとかこれまでやってきたことをテクノロジーと掛け合わせることで新たなコンテンツ作りが出来ないか模索している。

昔は先輩こそ、経験を積んだ人こそという思いがあり、なんとなく自分より上の方に教を請うようなことが多かった気がする。この年齢になり、しかもインターネットの時代は、若ければ若いほど感性とスキルが凄くて、どうしても教を請う側になる。これも自己投資だと思い、謙虚に精進している。

今新たなコンテンツとして自分なりに考えていることが4つある。元々、映画監督になるか演出家になるか、と考えていたこともあるぐらい、映画や映像には今でも興味がつきない。配信が爆発的に伸びたコロナ禍以降、今でもSNSでの

ショート動画や配信作品を見続けている。舞台は「ライブでこそ!」と言い続けていただけに、大転換のような気もするが、共通なことも多いので、この際掛け合わせてさらに新しいテクノロジーで可能性を探りたいと思っている。

まず、考えているのが「AIと演劇の未来」。

自分自身も演劇やミュージカルは単なる娯楽ではなく、共感や感動、それだけではない、心の豊かさや人間の成長をさせてもらった。これだけでも自己投資なのだが、ライブとAIを融合することで、「もしも～ができれば」という空想が膨らむ。例えば、鑑賞時に観客が「感動」「歓喜」「悲しみ」「怒り」など、どこに一番心が揺れたかという数値が瞬時に出たりすることで、脚本の内容や音楽、セリフの言い回しを調整していくことができないか?とか。もちろん、AIに脚本やプロットを書いてもらったり、曲のイメージをたたき台として作ってもらったりすることは、すでに始まっていると思う。クリエイティビティをAIと掛け合わせて、これまで感じたことのない、見たことのない挑戦をやってみたいと思う。

次に、最も相性が良さそうな「MR (Mixed Reality)と演劇」。

MR技術の進化により、演劇体験がより没入型で臨場感のあるものになることが期待される。MR技術を用いた演劇体験は、これまでにない、リアルな人物と仮想空間の融合によって生み出



宮本 亞門 (みやもと あもん)

1958年1月4日生まれ。演出家。2004年、東洋人初めての演出家として、ニューヨークのオンブロードウェイにて「太平洋序曲」を手がけ、同作はトニー賞4部門にノミネートされる。主な作品に、芝居「金閣寺」、オペラ「蝶々夫人」、能×3D「幽玄」など、ミュージカルのほか、ストレートプレイ、オペラ、歌舞伎、能など、ジャンルを越える演出家として国内・海外で精力的に活動している。受賞歴に、文化庁芸術祭賞、朝日舞台芸術賞秋元松代賞、服部 真二賞、澄和 Futurist賞など多数。

され、感情や共鳴が倍増させる場になりうる。これにより、従来のブロードウェイや配信プラットフォームにとらわれない新しい演劇体験が生まれることで、市場が拡大する可能性がある。演劇製作におけるMRの活用は、視覚的な魅力や臨場感を高め、新たな視聴体験を提供することで、ブロードウェイを超える市場を開拓するきっかけとなるかもしれない。これも新たな投資になる可能性は大である。

そして、「ショートフィルム」。

映画が作りたいと叫び続けて、5年。ただ、この5年で映像の世界もずいぶん激変したように思う。TikTokが台頭してきて以来、YouTubeやインスタグラムも短い動画が主流になってきている。現在の私たちの1日の情報量は平安時代の人の一生分と言われているそう。若い世代こそ、タイムパフォーマンス(タイパ)を求め短い動画で情報を処理しようとしている中、もう長い映画や映像は見なくなっている。ショートフィルムは今後の未来に有効ではないか。ショートフィルムは低コストで制作されることが多く、インターネットやSNSを通じて広範な視聴者に見てもらえるため、投資家にとっては比較的风险が低く、高いリターンが期待できる投資先として魅力的だと思う。最近はショートフィルムのプラットフォーム(サマンサなど)も現れてきており、ショートフィルムがより多くの投資家の関心を引くこと

で、エンターテインメント産業全体の市場規模が拡大し、新たな投資機会が生まれる可能性があるのでは?と思い、今まさにプレゼン中である。

最後に、「映画」の未来。

映画産業は、単なる娯楽だけでなく、社会的メッセージや文化的遺産の伝承など多岐にわたる影響力を持ち、私も子どもの頃から人生の学びだった。AIや新技術の導入により、映画製作プロセスが効率化され、より多くの作品が制作される可能性があり、オンライン上のプラットフォームが次々生まれて、すでに映画館だけを見る機会はほとんどの人がないのではないか。なので、映画産業全体の市場規模が拡大し、新たな市場や投資機会が生まれると感じている。ハリウッドやブロードウェイを超える市場が存在する可能性も高く、投資家にとって注目すべき未来展望となるだろう。

資本主義も行き過ぎてしまい、世界は大混乱の真っ只中。今考えたいのは、お金だけで回ることだけではなく、まず足元の自分への自己投資、そして、人間の成長ではないか。文化や芸術はそのためにあると今でも信じている。世界経済や世の中のニュースから一度目を逸らして、自分自身へ目を向けると、世界で最も大切な自分自身という宝物に気付かされるのかなと思っている。

連結財務諸表

連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
流動資産	187,977	171,936
固定資産	145,664	132,945
① 資産合計	333,642	304,881
流動負債	75,918	59,823
固定負債	24,739	17,906
② 負債合計	100,657	77,730
③ 純資産合計	232,984	227,150
負債純資産合計	333,642	304,881

連結損益計算書及び連結包括利益計算書(要約)

(単位：百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
④ 売上高	276,321	284,603
売上総利益	61,407	63,174
販売費及び 一般管理費	50,779	49,378
⑤ 営業利益	10,628	13,796
経常利益	11,537	15,602
税金等調整前 当期純利益	9,452	15,862
⑥ 親会社株主に帰属する 当期純利益	5,243	11,512
包括利益	11,602	27,307

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
営業活動による キャッシュ・フロー	39,205	5,936
投資活動による キャッシュ・フロー	△21,512	△12,138
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,288	△12,775
現金及び現金同等物に 係る換算差額	1,954	2,231
現金及び現金同等物の 期末残高	52,396	33,857

① 「棚卸資産」の減少がありましたが、「現金及び預金」や「有形固定資産」の増加などにより、総資産は287億60百万円増加しました。

② 「支払手形及び買掛金」や「長期借入金」の増加などにより、負債は229億27百万円増加しました。

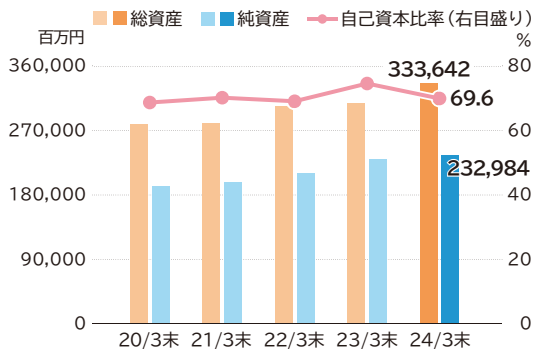
③ 円安の進行による「為替換算調整勘定」の増加などにより、純資産は58億33百万円増加しました。

④ 価格改定や円安効果に加え、第三四半期以降、半導体・電子部品関連製品やシール・ラベル用粘着製品を中心に受注は回復傾向にありましたが、上期の販売数量減少をカバーするまでには至らず、売上高は82億81百万円減少しました。

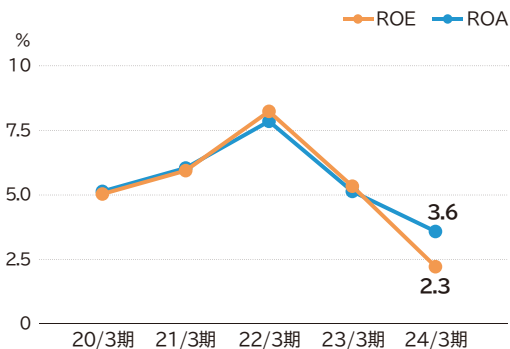
⑤ 売上高の減少があったほか、パルプをはじめとする原燃料価格の高止まりや受注減少による生産設備の稼働率低下に伴う操業損失もあり、営業利益は31億68百万円減少しました。

⑥ 韓国と台湾の連結子会社の解散決議に伴う特別損失を計上したことなどにより、親会社株主に帰属する当期純利益は62億69百万円減少しました。

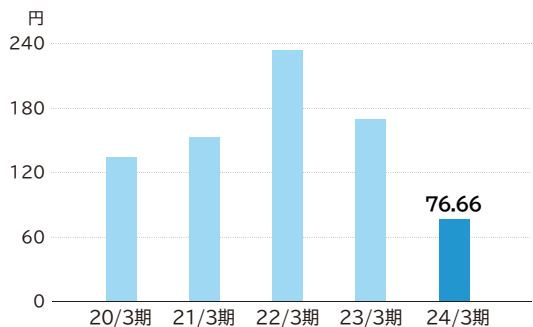
総資産・純資産・自己資本比率



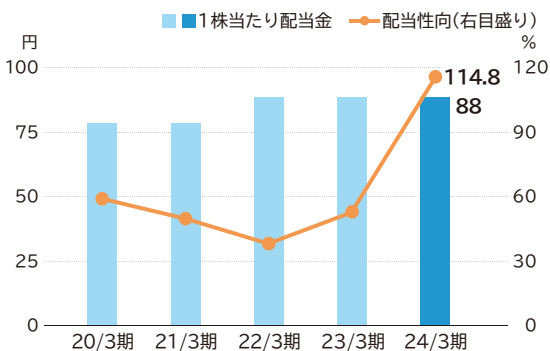
ROE (自己資本当期純利益率)・ROA (総資産経常利益率)



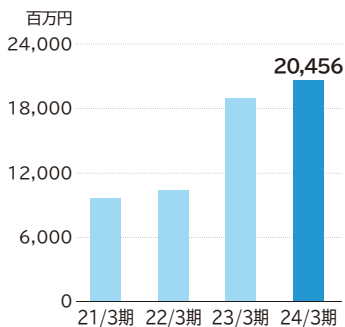
1株当たり当期純利益



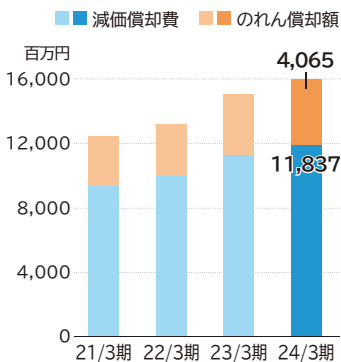
1株当たり配当金・配当性向



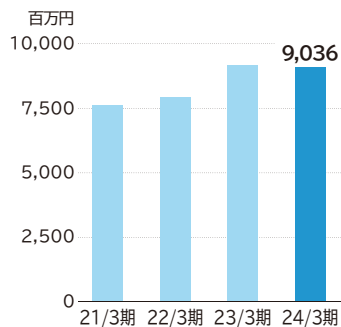
設備投資額



減価償却費・のれん償却額



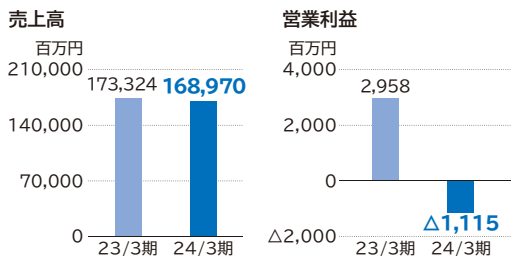
研究開発費



印刷材・産業工材関連 (前期比)

売上高 **1,689億70**百万円 (2.5%減)

営業利益 **△11億15**百万円 (-)



印刷・情報材事業部門 (前期比)

売上高 **1,331億75**百万円 (4.9%減)

主要製品

- シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム
- バーコードラベル用粘着紙・粘着フィルム



産業工材事業部門 (前期比)

売上高 **357億95**百万円 (7.4%増)

主要製品

- 自動車用粘着製品
- 工業用粘着テープ
- ラベリングマシン
- ウィンドーフィルム
- 屋外看板・広告用フィルム
- 内装用化粧フィルム



事業部門別の売上高とセグメント営業利益の概況

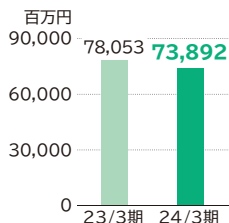
- 印刷・情報材事業部門はシール・ラベル用粘着製品が、国内では物流や通販向けが堅調だったものの、食品関連を中心とした物価上昇の影響により需要が減少しました。加えて、アイキャッチラベルや飲料キャンペーン用なども低調に推移しました。海外では米国、中国において販売数量が大幅に減少しました。
- 産業工材事業部門は国内では自動車用粘着製品や通販向け装置が堅調に推移しました。海外では米国やインドで建物・自動車用ウィンドーフィルムや自動車用粘着製品が堅調に推移しました。
- セグメント営業利益は国内における主原材料価格の高止まりや物流コストの上昇に加え、米国での販売数量減少の影響などもあり、営業損失となりました。

電子・光学関連 (前期比)

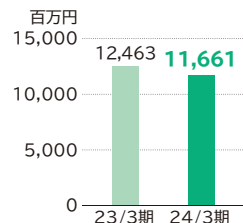
売上高 **738億92**百万円 (5.3%減)

営業利益 **116億61**百万円 (6.4%減)

売上高



営業利益

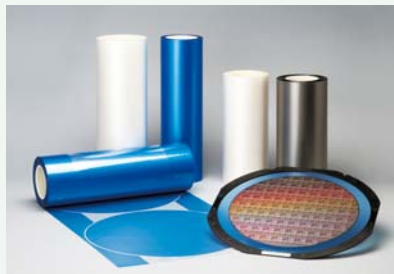


アドバンスマテリアルズ事業部門 (前期比)

売上高 **599億78**百万円 (2.4%減)

主要製品

- 半導体関連粘着テープ
- 半導体関連装置
- 積層セラミックコンデンサ関連テープ



オプティカル材事業部門 (前期比)

売上高 **139億14**百万円 (16.2%減)

主要製品

- 偏光フィルム／粘着加工
- タッチパネル関連製品



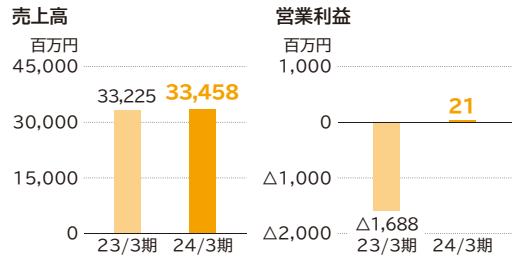
事業部門別の売上高とセグメント営業利益の概況

- アドバンスマテリアルズ事業部門は半導体関連粘着テープや関連装置、積層セラミックコンデンサ関連テープが、第3四半期以降、受注が回復しましたが、上期の不振をカバーするまでには至りませんでした。
- オプティカル材事業部門は光学ディスプレイ関連粘着製品が大型テレビ用やスマートフォン用などの需要減少に加え、競争が激化したこともあり、低調に推移しました。
- セグメント営業利益は受注減少による生産設備の稼働率低下に伴う操業損失もあり、前期に比べ減少しました。

洋紙・加工材関連 (前期比)

売上高 **334億58**百万円 (0.7%増)

営業利益 **21**百万円 (-)



洋紙事業部門 (前期比)

売上高 **153億29**百万円 (5.0%減)

主要製品

- カラー封筒用紙
- 色画用紙
- 特殊機能紙
- 高級印刷用紙
- 建材用紙



加工材事業部門 (前期比)

売上高 **181億29**百万円 (6.1%増)

主要製品

- 粘着製品用剥離紙
- 光学関連製品用剥離フィルム
- 合成皮革用工程紙
- 炭素繊維複合材料用工程紙



事業部門別の売上高とセグメント営業利益の概況

- 洋紙事業部門は耐油耐水紙が堅調だったものの、主力のカラー封筒用紙や工業用特殊紙が低調に推移しました。
- 加工材事業部門は粘着製品用剥離紙が低調だったものの、電子材料用剥離紙は需要が大きく回復したことに加え、合成皮革用工程紙、炭素繊維複合材料用工程紙が堅調に推移しました。
- セグメント営業利益はパルプを中心とした原燃料価格の高止まりや物流コスト上昇などの影響を受けたものの、価格改定効果もあり、前期に比べ増加しました。

※ セグメント別の営業利益はセグメント間取引消去前の数値に基づいています。

会社概要 (2024年3月31日現在)

社名	リンテック株式会社 (英文：LINTEC Corporation)
本社	東京都板橋区本町23-23
設立	1934年10月15日
資本金	233億5,598万1,761円
上場	東京証券取引所プライム市場
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
従業員数	連結：5,476人 単体：2,618人
事業所	営業拠点：東京、札幌、名古屋、大阪、福岡など全国11か所 生産拠点：吾妻(群馬県)、熊谷・伊奈(埼玉県)、千葉(千葉県)、 龍野・新宮(兵庫県)、小松島(徳島県)、三島・土居(愛媛県) 研究拠点：蕨・さいたま(埼玉県) 海外事務所：ハノイ(ベトナム)
連結子会社	国内：3社 海外：38社

役員一覧 (2024年6月20日現在)

取締役

代表取締役会長		大内 昭彦
代表取締役社長	社長執行役員	服部 真
取締役	専務執行役員	望月 経利
取締役	専務執行役員	海谷 健司
取締役	常務執行役員	柴野 洋一
取締役	常務執行役員	松尾 博之
取締役(社外)		瀬邊 明
取締役(社外)	独立	奥島 晶子
取締役(社外)	独立	白幡 清一郎

監査等委員である取締役

取締役/監査等委員		木村 雅昭
取締役(社外)/監査等委員	独立	大澤 加奈子
取締役(社外)/監査等委員	独立	杉本 茂

執行役員

常務執行役員	月田 達也
常務執行役員	吉武 正昭
常務執行役員	持田 欣也
常務執行役員	峯浦 芳久
執行役員	西角 尚志
執行役員	所司 悟
執行役員	妹尾 秀男
執行役員	三宅 英樹
執行役員	山本 直樹
執行役員	青木 智
執行役員	沼澤 英樹
執行役員	川上 豪毅
執行役員	喜井 大介
執行役員	木村 慶太
執行役員	清水 充
執行役員	京極 昌一
執行役員	星 優
執行役員	瀬川 丈士
執行役員	竹内 栄一郎

株式情報 (2024年3月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式の総数 (ただし自己株式を除く)	68,403,509株
単元株式数	100株
株主数	8,038人

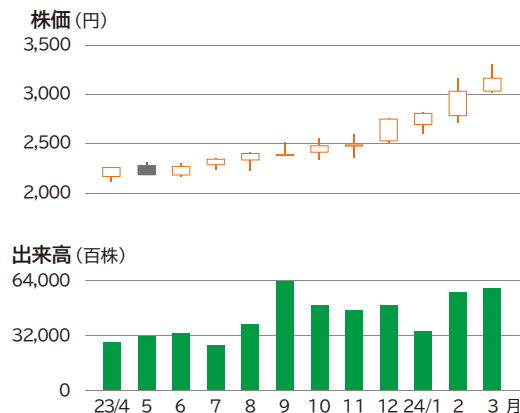
大株主の状況 (上位10位)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本製紙株式会社	20,553	30.04
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,800	11.40
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	6,696	9.79
庄司 たみ江	1,796	2.62
全国共済農業協同組合連合会	1,591	2.32
リンテック従業員持株会	1,233	1.80
塩飽 恵以子	1,043	1.52
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	934	1.36
塩飽 一誉子	803	1.17
庄司 早木子	797	1.16
庄司 光江	797	1.16

注1. 当社は自己株式8,285,231株を保有しておりますが、上記表からは除外しております。

注2. 持株比率の算定に当たっては、自己株式を控除して計算しております。

株価および出来高の推移 (2023年4月~2024年3月)



IRメール配信サービスのお知らせ

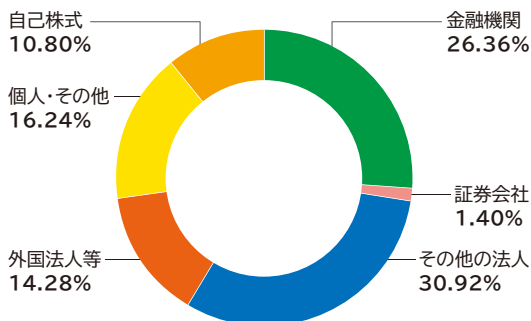
当社では新製品情報なども含め、株主・投資家の皆様へさまざまなニュースを幅広くお届けするため、IRメール配信サービスをご提供しています。配信をご希望の方は、当社IR情報サイトよりご登録をお願いいたします。



スマートフォンなどでこの二次元コードを読み取ると、登録ページへ簡単にアクセスできます。

www.lintec.co.jp/ir/ir_mail

所有者別分布比率



アンケートへの ご協力をお願い

当社では、より質の高いIR活動を推進していくために、読者の皆様のご意見やご要望を幅広くお聞かせいただきたいと思いますと考えております。つきましては、添付のはがき、またはインターネット（裏表紙参照）にてご回答いただけましたら幸いです。何とぞご協力のほどお願い申し上げます。（2024年9月30日締め切り）

質問1 当社株式への投資についてご質問します。

① 当社株式を保有されていますか？ それは何株ですか？

ア. 5千株以上 イ. 1千株～5千株未満 ウ. 200株～1千株未満 エ. 100株～200株未満 オ. 100株未満
カ. 保有していない ※「カ」を選ばれた方は質問2にお進みください。

② 保有期間はどのくらいですか？

ア. 10年以上 イ. 5年～10年未満 ウ. 3年～5年未満 エ. 1年～3年未満 オ. 1年未満

③ 当社株式を保有する理由として最も当てはまるものは何ですか？

ア. 株価の値上がりが期待できるから イ. 配当金が魅力的だから ウ. リンテックのファンだから
エ. 当誌「LINTEC WAVE」を読むのが楽しみだから オ. リンテック・オリジナルカレンダーが好きだから
カ. 自分や知人が勧めている（いた）から キ. その他（ ）

④ 当社株式の今後の保有方針をお聞かせください。

【保有方針】

ア. 現状のまま継続保有 イ. 買い増して継続保有 ウ. 一部売却して継続保有
エ. 全て売却する予定（もしくは売却済み） ※「ア～ウ」を選ばれた方は以下についてもご回答ください。

【保有期間（予定）】

ア. 長期（5年以上） イ. 中期（3年～5年未満） ウ. 短期（3年未満）

質問2 当誌「LINTEC WAVE」（以下「WAVE」）や当社の広報・IR活動についてご質問します。

① 「WAVE」に掲載してほしい情報は？（複数回答可）

ア. 経営方針・戦略 イ. 事業内容 ウ. 製品・技術情報 エ. サステナビリティ情報 オ. 拠点の情報
カ. 社員紹介 キ. その他（ ）

② 「WAVE」についてどのような発行形態を希望されますか？

ア. 引き続き冊子として発行してほしい イ. 電子版（ホームページ掲載）のみでよい
ウ. 冊子と電子版の両方を希望する エ. その他（ ）

③ 当社のIR活動・施策について期待されるものは何ですか？

ア. ホームページの情報充実 イ. 個人投資家向け会社説明会の実施 ウ. 株主向けイベント（工場見学会等）の実施
エ. 「WAVE」の充実 オ. 広告・宣伝活動の充実 カ. SNSの活用 キ. その他（ ）

④ 当社新聞広告を御覧になったことはありますか？

ア. ある 新聞名（ ） イ. ない ウ. 新聞を購読していない

質問3 当社へのご意見・ご要望、「WAVE」や広告についてのご感想などを ぜひお聞かせください。（記述回答）

お知らせ



これまで年4回発行していた当誌「LINTEC WAVE」は、今期より年2回発行（6月・通期決算号、12月・中間決算号）に変更いたします。今後もウェブサイトなどを通じて株主の皆様により詳細な情報提供に努めてまいりますので、引き続きご愛読くださいますようお願い申し上げます。

株主メモ

定時株主総会	6月
配当基準日	期末：3月31日 中間：9月30日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行株式会社
・郵便物送付先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
・フリーダイヤル	☎ 0120-232-711
・ホームページアドレス	www.tr.mufg.jp/daikou
住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について	株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。
未払配当金の支払いについて	株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。
株主総会資料の電子提供制度開始に伴う書面交付請求に関するご案内	株主総会資料の書面での交付を希望される場合は、株主様の口座のある証券会社または株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。
法定公告掲載ホームページアドレス	www.lintec.co.jp/ir/stock/koukoku.html

2025年版オリジナルカレンダープレゼントのお知らせ

本誌19ページの読者アンケートにお答えいただいた皆様には、後日、当社オリジナルカレンダーを送付させていただきます。本誌付属のはがき(切手不要)かインターネット(下記二次元コードからアクセス)でご回答いただけますので、ぜひご協力ください。

●回答はお一人につき1件まで有効とさせていただきます。



www.lintec.co.jp/enq95

※インターネットによるご回答にはメールアドレスが必要です。



※画像は2024年版カレンダー



リンテック株式会社 *Linking your dreams*

● 本社 〒173-0001 東京都板橋区本町23-23
URL www.lintec.co.jp

発行 広報・IR室 2024年6月
TEL. (03) 5248-7741
FAX. (03) 5248-7754

社名の由来は、リンクージ(結合)とテクノロジー(技術)。ロゴマークは、地球を表す楕円にLINTEC・LINKAGE(結合)・LOYALTY(誠実)の三つの「L」で表現したウエーブ(波)を組み合わせでデザイン。世界を舞台に飛躍していこうという決意を込めています。

**UD
FONT**

ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。